

2020 年度業務実績報告書

提出日令和 3 年 1 月 18 日

1. 職名・氏名 助教 坂部敬子

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学大学院看護福祉学研究科修士課程、
授与年 平成 26 年 3 月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 公衆衛生看護学実習Ⅰ（2 単位）：4 年生
②内容・ねらい 地域の特性と健康問題・課題について地域診断を通して理解する。 保健所実習において保健所の役割と機能、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 大学の新型コロナ感染予防対策により、学生は実習期間中、学内に入ることができなかった。そのため、地域診断は ZOOM による指導で実施した。ZOOM や LMS に不慣れな学生やそれらを使用できない学生に配慮しながら実習を進めた。実習前には、実習室にある地域診断に必要な資料を学生に郵送またはデータ送信し、より詳細なオリエンテーションを行い学習に支障が出ないようにした。学生に不安やストレス、学習意欲の低下が起こらないよう、ZOOM でコミュニケーションを図り学生の様子を把握することに努め、またいつでも質問や相談ができるようにした。 地域診断の過程においては、実際に実習に出向いたときに、実習市町の健康課題に基づいた公衆衛生看護活動を理解した上で実習に臨むことができるよう指導に努めた。 実習においては、保健所実習の実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導責任者と十分な話し合いを行った。コロナ禍であり事業の参加学生数に制限があったが、学生間で学びの共有が行えるようにした。指導においては、見学・体験と講義での学びとがつながるように努めた。実習期間中は、看護職者としてだけでなく、社会人としても主体的で責任ある行動がとれるよう助言した。 家庭訪問（見学）の実習記録を一部変更し、実際に訪問して得られるような学びが確実に得られるよう工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 公衆衛生看護学実習Ⅱ（3 単位）：4 年生
②内容・ねらい 市町を単位として受け持ち、個人・家族・特定集団・地域全体を視野に置いた公衆衛生看護活動を展開するために必要な能力を養う。地域の健康課題に対する公衆衛生看護活動の展開方法と公衆衛生看護の役割と専門性について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 公衆衛生看護学実習Ⅰ同様、コロナ禍であっても実習が支障なく進められるように、学生に不安やストレス、学習意欲の低下が起こらないよう配慮した。 市町実習の実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導責任者と十分な話し合いを行った。連絡調整や企画立案といった見学・体験できない保健師の仕事については、講義等で

説明してもらうようにした。実習で参加する事業からの学びを重視し、日々の実習目標および実習期間全体における実習目標の立て方、実習まとめの内容を見直した。学生の実習目標が達成できるよう、実習前、実習中に実習指導責任者との連絡調整を密におこなった。コロナ禍であり事業の参加学生数に制限があったが、学生間で学びの共有が行えるようにした。実際に住民を対象にしたグループでの健康教育を行うことはできなかったが、学生一人ひとりが健康教育を企画し実践できるレベルまで個別指導を行った。その際、健康教育の対象理解が不十分な学生に対しては、実習指導責任者に相談し理解が深められるよう事業参加を追加してもらった。コロナ禍で家庭訪に同行できないため、事例紹介をしてもらうようにした。

家庭訪問（見学）の実習記録を一部変更し、実際に訪問して得られるような学びが確実に得られるよう工夫した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
公衆衛生看護技術Ⅰ（地域診断）（1単位）：3年生

②内容・ねらい
公衆衛生看護活動の展開に必要な地域診断について演習を通して知識・技術を習得し、理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
開講予定の令和元年度末（令和2年3月）は、大学の新型コロナ感染予防の方針も定まらず、オンライン授業の体制も整備中であった。初日の2日間は対面での授業ができたが、その後は学生個々が課題に取り組む時間にした。
対面授業の2日間は、既存の衛生統計資料や保健医療に関する資料等を図表化・分析する知識・技術について助言し、公衆衛生看護学実習Ⅰにおける地域診断につながる学習となるよう努めた。また、学生が実習する市町を理解し、関心が持てるように関わった。
前年度の演習・実習を評価し、演習内容および授業の進め方を見直した。
今年度末に行う次学年の授業については、学生が健康課題の捉え方について理解できるように工夫する。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
公衆衛生看護技術Ⅱ（個人・家族）（1単位）：3年生 ※科目の主担当

②内容・ねらい
乳児家庭訪問における個人・家族支援の過程と実際、支援に必要な知識・技術と方法を理解する。
幼児健康診査の問診・指導場面における発育・発達のアセスメント、保健指導に必要な知識・技術と方法を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
令和元年度末（令和2年3月）に開講予定であったが、5月にZOOMで授業を行った。
対面で説明していた演習の進め方についても、新たにパワーポイントを作成して詳細な説明を行った。
乳児家庭訪問の事例を用いて、学生が家庭訪問の流れを具体的にイメージする、事例の家庭訪問対象者の訪問前情報からアセスメントして訪問目的と訪問時に確認してくること・予測される支援を考える、事例の家庭訪問場面を分析し必要な支援を考えることで、実習で見学する家庭訪問場面での学びがより深まるようにした。さらに、コロナ禍で同行訪問ができない場合を考え、授業に同行訪問で学ぶ内容を追加し、実際の家庭訪問場面がイメージできるようにした。
幼児健診については、問診・指導場面における発育・発達のアセスメントについて授業内容・課題を充実させた。家庭訪問同様、幼児健診の見学ができない場合であっても、保健師が健診

場面で子どもの発達をどのようにみて判断しているのか、支援の実際について理解できるようにした。

課題の一部を事前学習課題として授業時間を増やしたことで授業内容を充実させることができた。今年度末に行う次学年の授業では、学生が提出した課題について解説する時間が十分とれるように見直す。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
公衆衛生看護技術Ⅲ（集団・組織）（1単位）：3年生 ※科目の主担当

②内容・ねらい
集団を対象とした健康教育を企画するために必要な技術を習得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
令和元年度末（令和2年3月）に開講予定であったが、6月にZOOMで授業を行った。対面で説明していた演習の進め方についても、新たにパワーポイントを作成して詳細な説明を行った。
コロナ禍の実習で実際に住民を対象とした健康教育を行うことは困難であると判断し、実践はしないが、健康教育の対象・事業・場の理解を行い、実践できる状態に仕上げることにした。これに繋ぐ授業として、演習内容を変更した。
演習開始までに実習施設と調整して実習で企画する健康教育の対象・事業・場を決定した。演習では、各自が健康教育の対象・事業・場の理解、健康課題の把握、健康教育の目的・目標の設定、教材の絵コンテ作成までを行った。
今年度末に行う次学年の授業では、実習で実践する授業内容に戻し、演習では対面またはZOOMでのグループワークを入れて実習に繋ぐと同時に、学生が他の学生の発表を聞いて学びを深められるようにする。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業研究（3単位）：4年生

②内容・ねらい
科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
コロナ禍であり、研究計画書の作成までをZOOMで指導した。研究計画書作成までであったが、実際に倫理審査申請、調査の依頼・実施、分析ができるところまで到達できるようにした。
指導の際は、今後、学生が研究に取り組む際に必要な基礎的な能力が身につくよう指導した。特に、倫理的配慮・倫理審査に関して説明・指導を丁寧に行った。
学生が明らかにしたいと考えることを大事にし、学生が主体的に進められるよう必要な助言を行った。また、学生が研究の大変さだけでなく楽しさも感じられるように関わった。

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書
【 本】
②学術論文（査読あり）
【 本】
③その他論文（査読なし）
【 本】
④学会発表等
1) 地域で暮らしている高齢者がその人らしい健康な生活を送るために実践していること－量的調査と質的調査の結果を統合した混合研究法による考察－. 第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会（2020 年 1 月 11 日）、中谷芳美、坂部敬子.
2) 地域で生活する高齢者の地域づくり活動への参加意思と保健事業利用・健康習慣との関連. 第 79 回日本公衆衛生学会総会(2020 年 10 月 20～22 日)、中谷芳美、坂部敬子、梶田悦子.
3) 地域で生活する高齢者の外出支援活動の意欲と関連する要因. 第 9 回日本公衆衛生看護学会学術集会(2020 年 12 月 25 日～2021 年 1 月 24 日)、中谷芳美、坂部敬子.
【3 件】
⑤その他の公表実績
報告書
1) 介護予防を推進する地域包括ケアシステム構築に向けた課題－自助、互助、公助・共助へのグループインタビューの声から－(2020 年 3 月)
【1 冊】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
(3)特許等取得
(4)学会活動等

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
看護学科総務係：令和元年度～令和２年度 看護福祉学部情報処理演習室管理担当：令和元年度～令和２年度 看護協会施設代表者：令和元年度～令和２年度
(3)学内行事への参加
・入試説明会（2.17） ・令和２年度第１回全学ミーティング（7.1） ・令和２年度第３回全学ミーティング（9.30） ・令和２年度臨時全学ミーティング（10.19） ・ハラスメント防止研修（11.2） ・ハラスメント防止に関する教員・職員向け研修会（12.23） ・令和２年度第４回全学ミーティング（12.23）
(4)その他、自発的活動など
・保健師職能集会・研修会「おとなの発達障害の理解」（2.15）